



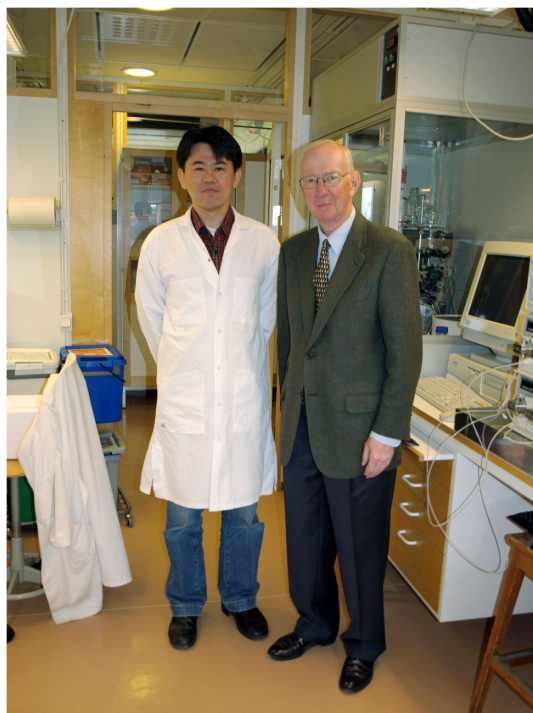
昭和女子大学生生活科学部健康デザイン学科

花香 博美

2018年4月1日に昭和女子大学生生活科学部健康デザイン学科の教授に着任いたしました。すでに半年が過ぎましたが、教務に追われながらも研究室のセットアップを進めております。

昭和女子大学は大正7年に人見圓吉らにより創立され、2020年には創立100周年を迎えます。幼稚園から大学院まで三軒茶屋にキャンパスを設けています。私の所属する健康デザイン学科は2009年に生活科学部に設置され、来年で10周年になります。本学科では栄養士の資格を取得できるだけでなく、食・栄養・健康に関連する専門的な知識を身につけ社会に貢献する学生を育てることを目標としています。

私が研究に触れたのは、研究医を目指して東京大学大学院に進学をした時でした。清水孝雄先生（現国立国際医療研究センター プロジェクト長）、和泉孝志先生（現帝京平成大学教授）より生化学と分子生物学を一から丁寧に教えていただきました。また当時、糸和彦先生（現名古屋市立大学教授）、横溝岳彦先生（現順天堂大学教授）、石井聡先生（現秋田大学教授）もスタッフとして在籍されており、セミナーなどでは非常に活発な議論が行われ、私にとっては最も好奇心をくすぐられた時期でもありました。その後、和泉孝志先生のお誘いにより群馬大学での助手を経て、スウェーデンのカロリンスカ研究所のベント・サミュエルソン教授の研究室に渡りました。サミュエルソン教授は1982年にプロスタグランジンの発見およびその研究でノーベル生理学・医学賞を受賞されています。今回、私が研究室を主宰することになったことをお伝えすると、大変喜ばれていました。ちなみに清水先生と和泉先生もサミュエルソン教授の研究室に留学されています。そのためこれまでの研究の流れは一貫しているように思います。カロリンスカ研究所で一番驚いたのは、撤退の早さです。実験結果から進むか撤退するかの判断が、非常に早く的確だったのが強く印象に残っています。サミュエルソン教授が判断されていましたが、時には難しいと思われたプロジェクトに対して大丈夫だから進めようという指示をいただきました。結局、その仕事は私のカロリンスカ研究所



サミュエルソン教授とカロリンスカ研究所にて。

での論文となりました。このようにこれまで一貫して脂質生化学の研究をしています。これまでいつも清水研出身の先生方やカロリンスカ研究所のスタッフに助けていただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

現在はリビドミクスを中心とした統合オミクス解析のシステム構築を行っています。清水先生にバックアップしていただき、全くゼロからの立ち上げでしたが少しずつ形になってきたところで研究室の移動となりました。今後は国内外の研究者と共同研究において利用できるようなシステムを作り上げることを目標としています。まだ卒研6名という小さな研究室ですが、もし研究にご関心がありましたらお気軽にご連絡いただけたら幸いです（h-hanaka@swu.ac.jp）。